

岐阜県に生きる全ての生徒に  
「力が付いて」「楽しくて」「またやりたい」  
と思う、国語の授業を提供するために

## 岐阜県中国研 令和元年度の振り返りと 令和2年度の方向

本荘中学校 伊藤 雄樹

### 令和3年度に実施する飛騨大会に向けて 本格的な動き出しが始まりました！！！！

平成29年度に実施された、「全国大会」。

この全国大会の成果を「広げる」「深める」をキーワードに活動を行ってまいりました。

平成30年度には、「研究総括提案」8ページにも書かせて頂いたように、『中国研ホームページを活用した情報共有』を開始し、全国大会の指導案や授業資料を、全て中国研のホームページから閲覧可能にするインフラを完備しました。

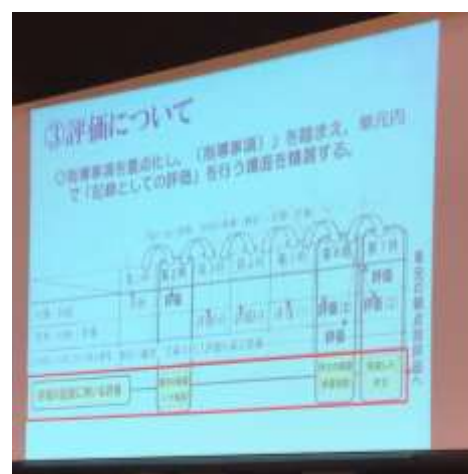
また、全国大会の実践を礎に、平成30年度以降に実践された数々の授業についても、指導案・授業資料の提供にご協力いただき、すでに閲覧可能な実践事例は、10以上となっております。

このようにして、全国大会の成果を「広げる」活動を行ってまいりました。

また、令和3年度に実施される「岐阜県中学校国語科研究部会飛騨地区大会」に向けて、三輪太雄校長先生（高山市立高山西小学校）・飛騨大会実行委員 野島将也先生（高山市立日枝中学校）を中心とし、令和元年8月6日に、高山市一之宮公民館で「飛騨地区中学校国語科研究会 夏季統一研究会」として、飛騨大会の準備会を実施してくださいました。

右側の写真にもあるように、当日は、午前中に「明日の国語を考える会」として、日々の授業づくりについての勉強会、午後からは、研究の共通理解を図る研究部会や、飛騨教育事務所 今井則雄先生より、今後の研究についてのご示唆を頂きました。

令和2・3年度は、この「岐阜県中学校国語科研究部会飛騨地区大会」を、中国研が毎年実施している「中国研夏季ゼミナール」として位置付け、全県をあげて、「オール岐阜」の精神で、飛騨大会での研究を盛り上げていきたいという所存です。



# 飛騨大会（令和3年度実施）の研究部の目玉とは？

前述した飛騨大会が実施されるのは、令和3年度。  
新しい学習指導要領が全面実施され、新しい教科書での学習がスタートする年度です。  
そう考えた時、飛騨大会を見に来てくださった先生方が一番知りたいとは何か？  
それが研究部の目玉になるのではないかと考えました。

自分だったら飛騨大会に行ってぜひ知りたいと思うのは、以下のことです。

新しい学習指導要領・教科書になったけど

## 具体的にどうやって授業をするといいの？ どうやって評価するといいの？

「主体的・対話的で深い学び」「カリキュラムマネジメント」「見方・考え方を働かせる」など、様々なキーワードが、令和3年度全面実施の学習指導要領には書かれています。

その中で、必ずやらねばならないことは、

- ① 「日々の授業」
- ② 「新しく3つの柱（『学びに向かう力、人間性等』『思考力、判断力、表現力』『知識及び技能』）に整理された上での適切な評価」

この2つです。

本年度でいうと、中学校の道徳が教科化となり、評価を行っていくようになりました。

その中で、道徳の評価を「どのように」行っていくのか？

これが最も知りたいと感じた一年でした。

新しい指導要領になり、誰もが初めて見る教科書で、

『具体的にどう授業し、生徒に「生きてはたらく言語能力を身に付けさせるのか？」

『具体的に「何を」「どのように」評価するのか？』

これが、誰もが知りたいことではないかと私は思います。

これについては、図1のように国立政策教育研究所から、令和元年6月に「学習評価の在り方ハンドブック」が出されています。私はこの中で、明確にしていく必要があるのは、

「**学びに向かう力、人間性等**  
(主体的に学習に取り組む態度)」を  
「どのように」評価するかということ

だと捉えています。

同ハンドブックを読み解いていくと、「学びに向かう力、人間性等」は、個人内評価における「感性・思いやりなど」と、「主体的に学習に取り組む態度」とカテゴライズしています。

また、「主体的に学習に取り組む態度」は、「知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりするために、自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するなど**自らの学習を調整**しながら、学ぼうとしているかどうかという意志的な側面を評価します」と書かれています。

私はこれを見て、「**自らの学習を調整しているかどうかを、どのように評価するのか？**

これを疑問に思いました。

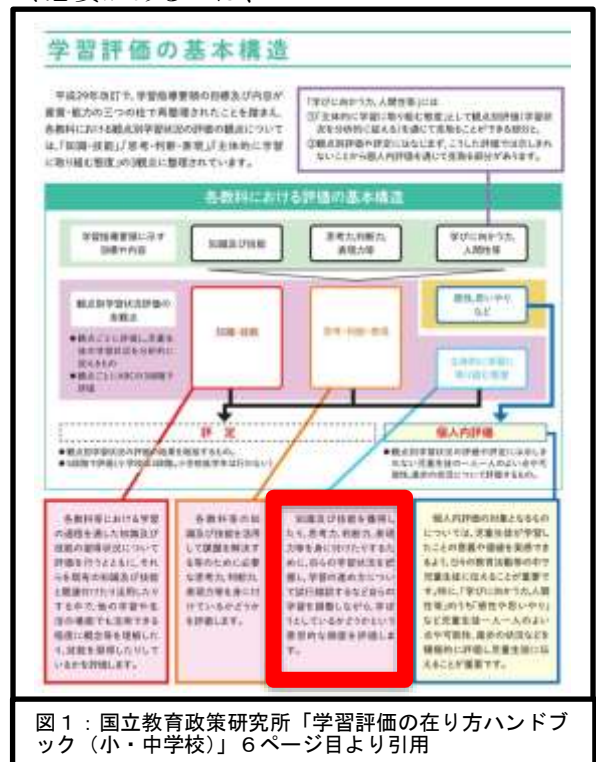


図1：国立政策教育研究所「学習評価の在り方ハンドブック（小・中学校）」6ページ目より引用

**自らの学習を調整**の評価については、図2に示したように、前述した8月6日の「飛騨地区中学校国語科研究会 夏季統一研究会」で、飛騨教育事務所今井則雄指導主事より、ご指導を頂いているものでもあります。

また、図3のように、同ハンドブックに、その具体が述べられております。

さらに、同ハンドブック9ページには、図4に示したように、このように書かれています。

「学校や教師の状況によっては、挙手の回数や毎時間ノートを取っているかなど、性格や行動面の計鯉が一時的に表出された捉える評価であるような誤解が払拭しきれていない」

つまり、すでに取り組んでいることではありませんが、

- ① **具体的にどんな力を付けるために、どんな授業をすればよいのか？**
- ② **身に付けた力を、どのように適切に評価するのか？**

この二つを飛騨大会で明らかにしていくことが、見に来てくださった方に、「来てよかった、飛騨大会」という実感をもっていただくことにつながるのではないかと考えました。

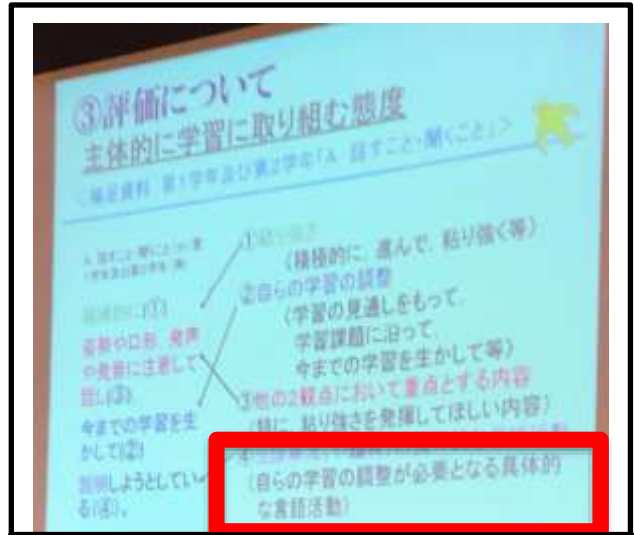


図2：「飛騨地区中学校国語科研究会 夏季統一研究会」における飛騨教育事務所 今井則雄指導主事のご指導



図3：国立教育政策研究所「学習評価の在り方ハンドブック（小・中学校）」9ページ目より引用

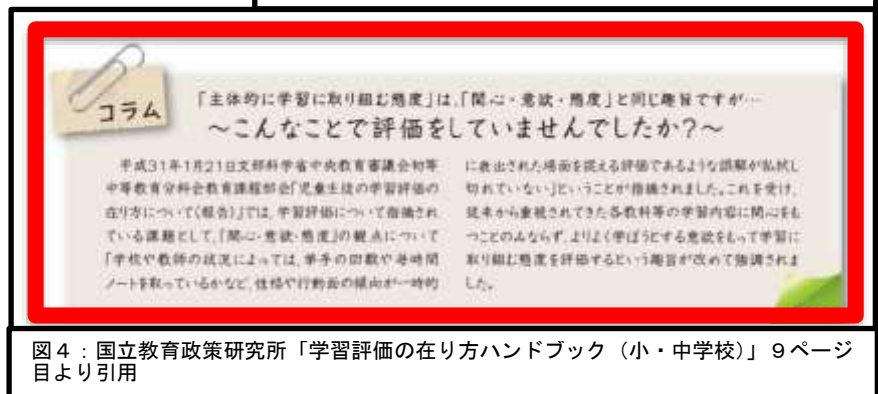


図4：国立教育政策研究所「学習評価の在り方ハンドブック（小・中学校）」9ページ目より引用

このような経緯で「授業」と「評価」について、具体のイメージをもつべく、令和元年11月14日・15日に、六本木ヒルズおよび、東京都港区立広陵中学校で行われた、「第48回全日本中学校国語教育研究協議会 東京大会」「第62回 全関東地区中学校国語教育研究協議会 東京大会」に参加させて頂きました。

この中で、私がかつとも感銘を受けたのは、広島県立広島中学校 積山 昌典教諭の実践です。

積山 昌典教諭は、令和3年度全面実施の学習指導要領の専門的作業等協力者を務められた方です。

積山教諭は、別紙で配布させて頂いたように、「走れ！強右衛門 描写を工夫して物語を書く」の教材にて、「主体的に学習に取り組む態度」を、次のような手順で評価を行われました。

(別紙：「走れ！強右衛門 描写を工夫して物語を書く」4・5・6ページ参照)

**第2時**  
 作品の中で、「アンダーラインを引いた記述」と「表現の意図を記したコメント」との対応を確認することを中心に評価。



**第3時**  
 「クラスメイトと協議しながら文章を遂行する中で、描写を工夫して作品をよりよくしている姿として捉え、生徒の活動を観察することで評価



**第4時**  
 「クラスメイトと協議した内容を踏まえ、表現の効果などを確かめて鳥居強右衛門のエピソードの一場面の作品を整えた姿」として捉え、生徒の作品を分析することで評価

コピー＆ペーストしたものを書き換えているので、「何をどのように書き換えたのか」などが分かる。「書き換えた理由」をコメントで入力しているので、生徒の意図を把握することができる。  
**「学習の調整」の評価の具体**

私は積山先生のご実践から、具体を学び、同時にこのような経緯で、

新しい学習指導要領・教科書になったけど  
**具体的にどうやって授業をするといいの？**  
**どうやって評価するといいの？**

を明確にするべきだと考えました。そのために、以下のような、指導事項に、指導計画と評価を組み込んだものを作成し、具体的にどうやって授業するとよいのか？どうやって評価するとよいのか？を明確にできる、その具体を飛騨大会の目玉としていきたいと思っております。

生きてはたらく言語活動一覧表（2年生「書くこと」）  
 単元名「論理を捉えて」 教材名「意見文の説得力を考える・根拠を明確にして意見を書こう」より

指導事項における言語活動	学習活動	評価規準と評価方法	下位される生徒のつまずき（つまずきに対する手立て）	時	授業計画・指導計画に反映する力
指導事項 審判事項	ア 多様な考えが出来る事柄について意見を述べること、自分の考えを書く活動				
ア 目的や意図を以て、社会生活の中で適切な材料を選択し、伝えたいことを明確にすること。 【国語の鑑賞、表現の計画】	・モデルケースの動画を見て、条件設定を確認し、自分が議論の責任者ならば、どう対応をするかを決める。 ・自分の主張を支える情報として、インターネット等を用いて調べ、情報メモにまとめる。	・「自分の経験」「自分の意見」だけでなく、「他の地域の事例」「知り合いへのアンケート」「公の調査」といった客観的事実を自分の主張を支える情報として集め、情報メモに書いている。 (情報メモ)	□サーチエンジンに、どんなキーワードを入れて検索するとよいか分からない。 ●3種類の例文を比較する活動を位置付け、「他の地域での事例」や、「知り合いへのアンケート」、「公の調査」などの事例を用いて、説得力が増すことに気付くことができるようにする。	1 2	1 2
イ 伝えたいことが分かりやすく伝わるように、段落相互の関係などを明確にし、文章の構成や展開を工夫すること。 【構成の検討】	・二種類の例文を読み比べ、どちらの文がより説得力があるかを考え、二つの工夫を発見する。	・説得力のある意見文を書くためには、二つ工夫をするよよいことを理解している。 取り返りの文脚	□例文の方が、説得力が高いことは理解できるが、その理由をうまく言語化できない。 ●二、三段落の文章を、それぞれ一台ずつのテレビ画面に映し出し、一文ごとに色を変え、視覚的に、その文の役割や、書かれている内容の違いを理解できるようにする。	1	1
ウ 表現の読みかたを考慮して資料や事例を読みかたを、表現の効果を考えて取りかたを、自分の考えが伝わる文章になるように工夫すること。 【考えの形成、記述】	・Aさんの主張を支える根拠に、どの事例をどのように書くかよよいかを考える。 ・自分の主張に合わせた事例の取り上げ方や書き方を吟味しながら書く。 ・「反論を想定した意見」として、「自分の主張」の「問題点」とその「解決策」を書く。	・自分の意見に合わせて、事例が意見を支えるものであるかを検討して、選択している。 「想定される反論」として「自分の主張の問題点」を「反論を想定した意見」として「その問題の解決策」をそれぞれ書いている。 (意見文の「反論を想定した意見」「主張」の役割)	□どの情報を選択すればよいか分からない。 ●情報メモに「ペットの野次郎」(赤坂・志摩半島)がなされていないときの「野次郎」等、小見出しを書き、根拠ごとに黄緑ペンで色分けをして、視覚的に判断できるようにする。 □「反論を想定した意見」を書くことができない。 ●自分の主張のよさ(長所)と、「自分の主張」の短所(短所)・「問題を解決するための方法」を分類し、視覚的に分かりやすくするための、マトリクスプリントを準備する。	3 4	3 4
エ 読み手の立場に立って、表現の強弱などを確かめて、文章を整えること。 【推敲】		本単元では、重点化しない。			
オ 表現の工夫とその効果などについて、読み手からの発言などを踏まえ、自分の文章のよよい点や改善点を見いだすこと。 【共有】	・仲間の見聞文を読み、意見文の説得力を高めている工夫を見つける。	・個人的な体験や主観的な考えのみではなく、客観的事実を加えていることや、「事例の取り上げ方・書きかた」「想定した反論や、それに対する意見」などの視点から、仲間の意見文の長所を高める書きかたを見付け、交流メモに書いている。 (交流メモ)	□意見文を自分で納得できるが、それがどの文や語句によるのかを言語化できない。 ●交換の際に、「取り上げられている客観的事実」「想定した反論や、それに対する意見」を分類して書きまわされる用紙を準備し、読者の立場において、どのような客観的事実が書かれているかや、反論を想定した意見として、何が書かれているかを視覚的に分かりやすくする。	5	5
関連する「知識及び技能」の評価	(2)ア 意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解すること。 (2)イ 情報と情報との関係の様々な表し方を理解し使うこと。	第3時の学習で「同じ視点の事例を並べる」「別の視点からの事例を挙げる」のいずれかを選択して、主張に合わせた事例の取り上げ方をしている。 第3時の学習で、「情報メモ」に書かれた情報を、書かれた小見出しをもとにして、情報の種類ごとに黄緑ペンで色分けしている。		3 3	3 3
関連する「学びに向かう力・人間性等」の評価	自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するなど、自らの学習を調整しながら、学ぼうとしているかという意志的な関係を評価する	第4時の学習で、「教師が修正するとよい」という意図で付けた意見文の下線をついた箇所を修正し、修正の意図を付箋紙に書いて添付している。		4	4

この具体を示したものを、「生きてはたらく言語活動一覧表」として、飛騨大会の目玉としたいと考えております。

# 飛騨大会（令和3年度実施）の具体と見通し

## 大まかな仕事の枠組み

【部会】 担当校長・教頭先生	部会部長	部会副部長	飛騨大会当日及び それまでの仕事内容
【研究総括】 安田英士校長先生 (岐阜西中学校)	伊藤雄樹 (本荘中学校)	金子紀之先生 (萩原南中学校)	① 全体会における基調提案 (伊藤) ② 全体会における飛騨地区研究 の歩み及び授業者・実践提案 者の方・分科会の流れの説明 (金子先生)
【飛騨大会実行委員】 三輪太雄校長先生 (高山西小学校)	野島将也先生 (日枝中学校)	斉藤裕輝先生 (東山中学校)	会場押さえや会場準備 司会進行 (全体会・会場校)
【話す・聞くこと】 樋田東洋校長先生 (恵那北中学校)	小島光太郎先生 (恵那東中学校)	熊崎智文先生 (金山中学校)	【話す・聞く】 授業者 中山中学校 金井 直子先生 【書くこと】 授業者 松倉中学校 田中 彩子先生 【読むこと】 授業者 日枝中学校 川原 秀登先生 【言語文化】 授業者 東山中学校 紺谷 篤 先生 【 】 授業者 白川郷学園 小林雅志先生
【書くこと】 長村覚校長先生 (長良中学校)	一川宗弘先生 (青山中学校)	荒井貴行先生 (久々野中学校)	
【読むこと】 片桐一男校長先生 (白鳥中学校)	小宅陽久先生 (不破中学校)	上條 亘先生 (下呂中学校)	
【言語文化】 大蔵徹哉校長先生 (東部中学校) 富田泰仁教頭先生 (星和中学校)	清水裕樹先生 (坂内中学校)	西岡隆行先生 (中山中学校)	
基本的な仕事内容	☆研究部を行う(指導案検討・プレ授業など)際の派遣依頼の作成 ☆研究部を行う際、会場となる学校への電話を、部会長の担当校長先生にご連絡いただけるように依頼をかける ☆公開授業・実践発表の検討統括	☆研究部を行う際の、(指導案検討・プレ授業など)会場押さえと日時の設定、部長に派遣依頼作成の依頼をかける(飛騨地区内で実施の際) ☆飛騨大会の授業者の決定・実践発表者の決定 ☆公開授業・実践発表の検討副統括 ☆部会内の研究部員への旅費会計	① 各領域1～2の公開授業(授業者) ② 分科会における研究部長研究構想の発表(小島先生・一川先生・小宅先生・清水先生) ③ 飛騨地区の実践発表(斉藤先生・熊崎先生・荒井先生・上條先生・西岡先生) または飛騨地区の先生方で発表＝発表者は飛騨地区の部長で決定

## 大まかな仕事の枠組み

- ① **各部会1つの授業は公開。授業者は飛騨地区の先生方**にお願いします。
- ② 実践発表を会場校で行う。今決定している組織を使い、**県の領域部長が、各領域の研究構想の説明、飛騨地区でその研究を受けての実践事例の発表**を行う。  
もし可能なら、**飛騨地区の領域部長さんが、実践発表者**となる。  
(難しい場合は、飛騨地区の領域部長さんが中心となり、飛騨地区で実践発表を行って頂く方を決定する)
- ③ 授業校及び授業者は、以下のようである。  
中山中学校 金井 直子先生(話す・聞く)  
松倉中学校 田中 彩子先生(書くこと)  
日枝中学校 川原 秀登先生(読むこと)  
東山中学校 紺谷 篤 先生(言語文化)  
白川郷学園 小林 雅志先生( )

☆指導案は令和元年度に作成開始(現行の教科書で)、令和2年度に授業者の先生が同一単元でプレ授業を行い、県の研究部はその授業に参加し検討を行う という形で研究を推し進める。  
☆しかしながら、令和3年度に教科書が変わるため、令和2年度に実施したプレ授業をもとに、令和3年度に指導案を作成する。

## 当日の流れについて

全体会・分科会の流れは以下のように行う（別紙 飛騨大会実行委員 野島先生の提案より引用）

10:00～10:30 受付（高山市民文化会館）

10:30～11:30 全体会

県中国研会長挨拶（安田英士校長先生）

飛騨中国研会長挨拶（三輪太雄校長先生）

基調提案（県中国研研究総括 伊藤雄樹）

指導助言（岐阜県教育委員会 学校支援課）

分科会での授業公開者及び実践発表者等の紹介（大会実行委員 野島先生）

11:30～13:30 授業公開会場への移動・昼食

13:00～13:20 受付（授業公開学校）

13:30～14:20 授業公開

- ・中山中学校（話す・聞く）
- ・松倉中学校（書くこと）
- ・白川郷学園（読むこと）
- ・日枝中学校（読むこと）
- ・東山中学校（言語文化）

14:20～14:35 休憩

14:35～15:50 分科会

- ・研究構想の説明（県研究部長）
- ・実践発表（飛騨地区研究部長）
- ・授業について（授業者）
- ・質疑応答及び討議
- ・指導、講評（指導主事）

分科会が終わり次第解散→各会場の片付け

※以下の三役を、飛騨中国研の部員が担当する。

- ・司会者
- ・記録者
- ・写真撮影者

## 研究紀要について

別紙 飛騨大会実行委員 野島先生の提案より引用）

※詳細なページ数等は来年度編集部長より提案する。

※紀要の原稿の締め切りは、令和3年8月いっぱいとする。

- 全体**
- (1)中国研会長あいさつ（県中国研 安田校長先生）
  - (2)県教委あいさつ（岐阜県教育委員会 学校支援課）
  - (3)飛騨地区校代表あいさつ（三輪校長先生）
  - (4)研究全体構想（県中国研 研究総括）
  - (5)飛騨地区の実践（研中国研研究副総括 飛騨大会実行委員 野島 将也先生）  
（飛騨地区研究総括 金子 紀之先生）

- 各部会**
- (1)〇〇部研究構想 ※担当 県中国研領域部長  
（話す・聞く 小島光太郎先生）（書く 一川 宗弘先生）  
（読む 小宅 陽久先生）（言語文化 清水 裕樹先生）
  - (2) 当日の授業の指導案（別紙1～3ページ参照 前文・単元指導計画・展開案1枚ずつ）  
**別紙提案要検討**  
指導案は、全国大会のように、紀要に綴じこんでしまっただけではどうか？  
当日までに変更はありうるので、改定した場合は、当日授業会場前に置くことで対応する。  
理由：すべての部会の指導案を手にするのが研究にかかわる情報共有につながると考える。  
会場が4校に分かれるため、参加した学校以外の指導案もやはりほしいと思われるので、綴じこんでしまっただけではどうかと思われる。
  - (3) 研究会で発表する飛騨地区の実践事例についてまとめたものと  
その単元の研究総括提案4で提案した言語活動一覧表 **要検討**
  - (4) 本時の授業の言語活動一覧表 **要検討**

令和3年度実施の「飛騨地区大会」までの向こう2年間の研究に関わる見通し

年度	令和2年度	令和3年度 <b>飛騨大会実施</b>
行うこと	<p>① 飛騨大会における「実践発表」の検討            ※夏に行う「飛騨地区中学校国語科研究会 夏季統一研究会」で実践発表で扱う実践事例の検討を行う。            ※プレゼンそのものを検討する場合や、実践する授業の指導案検討など、各部会で行うが、実践発表での事例を用いて、各部会の研究へのとらえをすりあわせる。</p> <p>② 第2回研究総会での研究部会で、実践発表および、指導案の検討            ※①で検討を行った授業または、令和3年度の実践を実践発表の事例とする。            ※来年度の第1回研究部総会の際に検討を行う。</p> <p>③ 「中国研ホームページを活用した情報共有（黒板写真等のホームページアップ）」            3/3年度</p> <p>④ 年間研究報告            (機関誌「ぎふこくご」)</p>	<p>①飛騨大会の当日の授業（プレ授業）の指導案検討            ※夏に行う「飛騨地区中学校国語科研究会 夏季統一研究会」で指導案の検討を行う。</p> <p>②飛騨大会における各部会のプレ授業            ※各授業者で日程を調整し、プレ授業を9月～10月に実施</p> <p>③飛騨大会の実践提案最終準備            ※第1回研究部総会で検討、夏に行う「飛騨地区中学校国語科研究会 夏季統一研究会」で最終確認を行う。</p> <p>④飛騨大会の運営</p> <p>⑤「中国研ホームページを活用した情報共有（黒板写真等のホームページアップ）」の更新</p> <p>⑥年間研究報告            (機関誌「ぎふこくご」にて飛騨大会の実施報告)</p> <p><b>※飛騨大会実施の年が、学習指導要領全面実施及び、教科書が変更となる1年目となります</b></p>

※以上のような日程で研究を推し進めてまいりたいと思っております。

※飛騨地区の研究部長の先生および、授業者の先生方には、来年度より、県の研究部員としてお力をお借りしながら、研究を進めていきたいと考えております。

# 「中国研ホームページ」への資料提供のお願い

飛騨大会に向けて、私たち研究部ができることは、「実践例を積み重ね、指導案の作成・検討を行う時、『以前このように実践してみたけど、その時は〇〇』と、実践をもとにして、精度を高めていくこと」ではないかと考えました。そのために、本年度も昨年度同様、各研究部で行った実践を是非ご提供頂き、本年度・来年度中に行われる指導案作成・検討に向けての土台としていきたいと考えています。  
現在閲覧可能なものだけでなく、随時、ホームページにおける情報提供を推進してまいります。


## 【手順】

①



Web上のサーチエンジンで、「ぎふこくご」をキーワードに検索

②




「第46回 全日本中学校国語教育研究協議会岐阜大会」でホームページにアクセス

③



ホームページ左上の「授業資料はこちらより」をクリック

④




「すぐに授業資料がみたい」の横の赤い円をクリック

⑤



希望のものをクリック

⑥



現在、全国大会授業関係の全てのデータの閲覧が可能です。随時実践をアップロードしていきます。

※キーワードが「ぎふこくご」で出てこない場合は、アドレス欄に「kokugo.chu.jp」と入力して下さい。



## 来年度の研究部員継続のお願い

以上のように活動を展開することができたのは、研究部員の先生方のお力添えがあつてのことです。可能であれば、是非来年度も継続して研究部員としてお力をお借りできればと思っております。無理にはお願いできないことも承知しておりますが、是非研究部へのご協力を賜りたいと考えております。

つきましては、別紙「来年度の中国研研究部 希望調査について」に希望をご記入頂き、3月11日(水)までに、現所属部長にお渡しください。また、新規で研究部員を希望される方がいらっしゃいましたら、大変お手数ではございますが下記までご連絡いただけますよう、よろしく願いいたします。

担当者	伊藤 雄樹 (いとう ゆうき)
メールアドレス	yukiito333@hotmail.com

## 令和2年度 中国研活動計画

日時	活動内容	留意点
5月中旬	第1回 研究部総会 ① 研究部長および、研究部員の紹介 ② 全体研究構想および、令和3年度開催の飛騨大会までの中国研活動の見通し(研究総括伊藤より) ③ 各研究部研究構想の確認(各研究部部長より) ④ 「中国研ホームページを活用した情報共有」授業実践及び加筆修正・黒板写真のホームページアップ)における3年次の役割分担	開催は、岐阜市教育研究所を、予定しております。
各部会で部長が集約(随時)	指導案・黒板写真等の授業資料を情報部 岸 浩道先生にメールで送付	メールアドレス <a href="mailto:beans@tcp-ip.or.jp">beans@tcp-ip.or.jp</a>
8月上旬 または 県統一研究日 <small>(日時が決定したら主務者より詳細をお伝えします)</small>	第1回「明日の国語を考える会」および、「中国研夏季ゼミナール」の実施・運営 ☆令和2年度は「飛騨地区中学校国語科研究協議会夏季統一研究会」を「中国研夏季ゼミナール」として位置付ける。 <b>内容</b> ☆県の研究構想の伝達 ☆飛騨大会における「実践発表」の検討 ※夏に行う「飛騨地区中学校国語科研究会 夏季統一研究会」で実践発表の検討を行う。 ※プレゼンそのものを検討する場合や、実践する授業の指導案検討など、各部会で行うが、実践発表での事例を用いて各部会の研究へのとらえをすりあわせる。 ☆事務所の先生からのご指導	☆令和2・3年度は、飛騨大会に向けての取り組みの一環として、 <b>飛騨地区で実施</b> します。 ☆午前中に「明日の国語を考える会」、午後に「飛騨地区中学校国語科研究協議会 夏季統一研究会」というように、同一日・同一会場で実施できればと考えております。 ☆場所は高山市内を予定しています。
12月	1年間の研究の歩みを「ぎふこくご」にまとめる執筆活動(主務者・研究総括・研究部長・各部会1名の方が実践報告)	
12月下旬	第2回「明日の国語を考える会」の運営	第2回の「明日の国語を考える会」は、東農・西濃学区での開催を予定しています。
1月下旬	ぎふこくご賞の審査	
2月中旬	第2回 研究部総会 ① ぎふこくご賞の表彰および、受賞者の方の発表 ② 飛騨大会の指導案・実践発表の検討 ③ 岐阜県中国研における「中国研ホームページを活用した情報共有」(「明日に生きる言語活動一覧表」を元にした授業実践及び加筆修正・黒板写真のホームページアップ)における役割分担 ④ 来年度の研究部員継続のお願いと確認「ぎふこくご」の配布による、研究報告	飛騨大会における計画を、この時点である程度ご報告いただけるように、準備を進めてまいります。 開催は、岐阜市教育研究所を予定しております。